（20）学際教育部会

教育部会名	学際
部会長名／作成者名	山内乾史

概　　要（2 ページ）

学際教育部会（以下、「部会」と略す。）は、62 科目+「グローバルチャレンジ実習」の 63 科目、延べ 100 コマの全学共通授業科目（総合科目、総合教養科目、高度教養科目）を全学部生に提供している。62 科目のうち、「社会と人権 A、B」、「国際協力の現状と課題 A、B」、「神戸大学史 A、B」、「神戸大学の研究最前線 A、B」、「企業社会論 A、B」、「グローバル人材に不可欠な教養-社会基礎学-（以下、「社会基礎学」と略す)」、「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」、「ひょうご神戸学」、「地域社会形成基礎論」、「環境学入門 A、B」、「男女共同参画とジェンダーA、B」、「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」、「EU 基礎論」、「職業と学び―キャリアデザインを考える―A、B」、「ボランティアと社会貢献活動 A、B」、「グローバルチャレンジ実習」の 26 科目が総合教養科目に、「高等外国語教育論」、「大学教育論」、「国際協力アクティブラーニング A、B、C」の 5 科目が高度教養科目に、「総合科目Ⅰ」19 科目と「総合科目Ⅱ」9 科目が「その他必要と認める科目」に区分される。「総合科目Ⅰ」は、「多文化共生のための日本語コミュニケーション」、「日本酒学入門」、「アジアへの誘い」、「社会基礎学（グローバル人材に不可欠な教養)」、「Creative School 基礎編（課題解決の考え方の考え方)」、「Creative School 応用編（オープンイノベーションコース)」、「ひょうご神戸学」、「地域社会形成基礎論」、「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」、「男女共同参画とジェンダーA、B」、「ボランティアと社会貢献活動 A、B」、「ＥＵ基礎論」、「アクセシビリティリーダー論 1」、「総合科目Ⅱ」は「企業社会論 A、B」、「環境学入門 A、B」、「職業と学び―キャリアデザインを考える―A、B」、「海のサイエンス」、「海のガバナンス」、「海のテクノロジー」、「データサイエンス概論Ⅰ、Ⅱ」、「データサイエンス基礎演習Ⅰ、Ⅱ」という副題をもつ。青字の科目は総合教養科目との重複科目である。

「社会と人権」、「国際協力の現状と課題」、「神戸大学の研究最前線」、「神戸大学史」は各クォーターに 1 コマずつ計４コマ開講される。なお、「海への誘い」と「瀬戸内海学入門」は集中講義であり、通常の授業がない７月～９月の土・日などに２・３日をかけて実施される。また、「社会基礎学」は土曜午後に実施される。

2020 年 10 月 1 日現在、111 名の教員が部会構成員となっている。そこには「神戸大学史」の授業の一部を担当されている武田廣学長も含まれる。学長を除く 110 名の所属部局は吉井昌彦理事（1 名)、V スクール（1 名)、産官学連携本部（1 名)、大学教育推進機構（17 名)、国際連携推進機構（5 名）に加えて、人文学研究科（3 名)、国際文化学研究科（7 名)、人間発達環境学研究科（8 名)、法学研究科（9 名)、経済学研究科（6 名)、経営学研究科（5 名)、理学研究科（1 名)、医学研究科（1 名)、保健学研究科（3 名)、工学研究科（5 名)、システム情報学研究科（0 名)、農学研究科（5 名)、海事科学研究科（7 名)、国際協力研究科（6 名)、科学技術イノベーション研究科（1 名）の 14 研究科、先端融合研究環（2 名)、内海域環境教育研究センター（5 名)、社会システムイノベーションセンター（2 名)、数理・データサイエンスセンター（1 名)、環境保全推進センター（2 名)、先端膜工学センター（1 名)、地域連携推進室（1 名)、海事科学研究科附属国際海事研究センター（1 名)、海事科学研究科附属練習船深江丸（1 名)、海洋教育研究基盤センター（2 名）である。システム情報学研究科も兼任教員が授業担当をしているので、実質的には 15 研究科すべてに担当が及んでいる。延べ 100 コマの授業に対して、コーディネータ等を含めた授業担当者の数が、非常勤講師を除いて 111 名もいるのは、部会が提供する科目にオムニバス方式の授業が多いからである。

部会長及び部会幹事は大学教育推進機構専任教授が勤めており、今年度については部会長を山内乾史教授が、幹事を米谷淳教授と近田政博教授、黒田千晴准教授、鶴田宏樹

准教授が務めた。

今年度の部会提供科目についての自己点検・評価は別紙の通り、「グローバルチャレンジ実習」、重複科目を除く全科目の担当者・コーディネータから評価シートが提出された。今年度実施した部会自己点検・評価及び外部評価と年度末の各科目についての自己点検・評価をもとに、今年度の部会の自己評価を以下のように総括する。

各科目ともその内容は人権問題、国際関係、社会問題、環境問題を広くカバーするとともに、学際的・現代的・国際的・先進的であり、教養教育にふさわしく、まさしく総合教養科目と呼べるものである。授業形態は数人の教員がリレー形式で 8 回講義する形式（「国際協力の現状と課題」、「神戸大学の研究最前線」、「神戸大学史」、「環境学入門」など）だけでなく、「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」、「ボランティアと社会貢献活動」、「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」のように、野外実習を含んだ体験学習、すなわち、アクティブラーニング型授業が多く含まれる。

多くの科目に関して、受講希望者が定員をはるかに超える人気科目であり、学生授業振り返りアンケートからもわかるようにほとんどが受講者の満足度は極めて高い。このように部会が提供する科目の実施状況は総じて良好であるといえる。

課題としては、コスト（人、施設、経費）がかかりすぎること、リレー科目における連携に問題のある科目がいくつかあること、科目間のグルーピングや体系づくりをしていく必要性、学生授業評価の回答率の低さと自由記述回答への対応などがある。こうした課題については、次年度以降、検討し、改善していかなければならない。

なお、令和 2 年度においては、コロナ禍の拡がりのため、密を避けるためにいくつかの授業科目が残念ながら不開講となった。具体的には「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」、「職業と学び」、「社会基礎学（グローバル人材に不可欠な教養）」である。いずれも特色のある、アクティブラーニングを中核に据えた人気のある科目であり、残念なことであった。(2541 字)

Ａ　組織構成と運営体制について

①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100 字程度）

非常に科目数も所属教員数も多い部会ではあるが、科目ごとにコーディネータ、あるいはオーガナイザーを置き、部会長・幹事が適宜連絡を取っている。また、学際教育部会全体の運営については、部会長と幹事が情報交換、意見交換する場を月に一回設け、スムースな運営を心掛けている。(131 字)
根拠資料 メールの記録

Ｂ　内部質保証について

①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか（100 字程度）

毎年開催される「学生・教職員による教育懇談会」において学生の意見を聴取している。また授業振り返りアンケートにおける「自由記述」を部会長と幹事が分析し授業改善に反映している。(86 字)
根拠資料 授業振り返りアンケート結果

②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150 字程度）

シラバスにおける「今年度の工夫」欄に毎年、授業振り返りアンケート等の回答から得られた改善の必要な点について、どのような工夫を凝らしたか記載している。(74 字)
根拠資料 Web シラバス

③授業の内容及び方法の改善を図るためのＦＤを組織的に実施しているか（100 字程度）

学際教育部会単独としてではないが、部会長と幹事全員を含む大学教育推進機構の FD として適宜実施している。(48 字)
根拠資料 全学評価・FD 委員会議事要録、国際教養教育委員会議事要録

④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるとともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100 字程度）

学際教育部会はアクティブラーニングの科目を多く含むので SA、TA を積極的に雇用している。(42 字)
根拠資料 国際教養教育委員会資料

C　教育課程と学習成果について

①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100 字程度）

学際教育部会においては、基礎教養科目はなく、総合教養科目と高度教養科目、総合科目が所属しているが、いずれについても部会長がシラバスに目を通し、適切でない個所については修正を依頼している。(93 字)
根拠資料 Web シラバス

②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100 字程度）

学際教育部会においては、基礎教養科目はなく、総合教養科目と高度教養科目、総合科目が所属しているが、いずれについても部会長がシラバスに目を通し、適切でない個所については修正を依頼している。(93 字)
根拠資料 Web シラバス

③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100 字程度）

学際教育部会においては、基礎教養科目はなく、総合教養科目と高度教養科目、総合科目が所属しているが、いずれについても部会長がシラバスに目を通し、適切でない個所については修正を依頼している。(93 字)
根拠資料 Web シラバス

④単位の実質化への配慮がなされているか（100 字程度）

シラバスの成績評価の欄で、成績評価は授業への積極的な参加、授業中の課題の他、授業時間外にさせるレポート等と期末試験（レポート）を総合的に評価する旨を明示し、毎回の授業で出欠確認するだけでなく、多くの科目で毎回学生にコメントを書かせて提出させている。オムニバス形式の科目では期末レポートで複数のテーマでレポートを書かせて提出させている。(167 字)
根拠資料 Web シラバス、授業中に配布するシラバスやガイダンス資料、レポート課題一覧

⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150字程度）

リレー形式・オムニバス形式で毎回異なる担当者が講義する大人数授業（「神戸大学の研究最前線」、「国際協力の最前線」など）がある一方、小集団に分かれてグループワークやフィールドワークをする少人数授業（「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」など）があり、それぞれの授業の目的と性格に相応しい形式で授業を実施している。今年度不開講ではあったが、「瀬戸内海学入門」では班にわかれて実験・測定をさせているが、これは文系学生にも理系の実験を体験させるという目的でなされている。「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」では、Moodle を利用して学生間の学習に関するやりとりをさせることで、授業時間外のグループワークを支援した。(299 字)
根拠資料 Web シラバス、教科書・教材、授業中に配布する資料など

⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前･事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50 字程度）

すべての科目のシラバスを精査したところ、すべての欄にしかるべき記入がなされており、必要にして十分な内容が書き込まれていることが確認された。(69 字)
根拠資料 Web シラバス、授業で配布するガイダンス資料、シラバス

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100 字程度）

オフィスアワーをシラバスに明示して学生からの相談にのっている科目（「神戸大学史」「瀬戸内海学入門」「環境学入門」「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」もあれば、担当者、コーディネータ、TA がメール等で適宜学生からの質問や相談に対応している科目（例えば「神戸大学の研究最前線」）もある。「神戸大学史」ではうりぼーネットの掲示板を利用して学生とのコミュニケーションをしている。(186 字)
根拠資料 自己点検・評価シート、メールの記録

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100 字程度）

学習相談に関しても同様に、オフィスアワーをシラバスに明示して学生からの相談にのっている科目（「神戸大学史」「瀬戸内海学入門」「環境学入門」「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」もあれば、担当者、コーディネータ、TA がメール等で適宜学生からの質問や相談に対応している科目（例えば「神戸大学の研究最前線」）もある。「神戸大学史」ではうりぼーネットの掲示板を利用して学生とのコミュニケーションをしている。(199 字)
根拠資料 自己点検・評価シート、メールの記録

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100 字程度）

成績評価方法、成績評価基準をシラバスに明示するとともに、毎年、すべての科目の成績評価データをもとに成績分布と合格率を算出し、適切な成績評価がなされているかチェックしている。成績申し立て制度に対応するため成績評価についての資料を５年間保存するとともに、申し立てがあった場合には採点の基準や理由を含め、どうしてそうした成績となったか調査し、ていねいに回答している。(180 字)
根拠資料 Web シラバス、成績評価のための資料（答案、出席記録、成績表、集計表等)、成績申し立てに対する回答

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100 字程度）

成績分布（５－３－②の根拠資料）からみて学習の達成度は、どの科目についても十分であることがわかる。また、毎学生授業振り返りアンケートの結果から、総合判断についても、総じて十分学習成果が上がっているといえる。(103 字)
根拠資料 ５－３－②の根拠資料の表・図、及び、学生授業振り返りアンケート結果